

中央公論美術出版 2013年 9月新刊

イタリア・ルネサンス建築史ノート シリーズ完結!

BRAMANTE

第3巻

ブラマンテ

福田 晴虔 著 定価 6,825 円 (本体 6,500 円 + 税)

A5 判上製カバー装 本文 456 頁 挿図 198 点

ISBN 978-4-8055-0669-1 C3070

「盛期ルネサンス建築」の大成者とされるドナート・ブラマンテ Donato Bramante (1444-1514) の建築的境涯は、謎に満ちている。フィレンツェの後を承けルネサンス文化の新たなセンターとなっていた郷里のウルビーノを離れて、一介の「流れ者」としてロムバルディアに辿り着き、幾つかの不思議な機知に満ちた建築を創り出すが、頑強に「ゴシック」の伝統を守り続けるその地であって、20 数年間を「建築家」ではなく主として「透視図法画家」として過ごさなければならなかった。そこで出会ったレオナルド・ダ・ヴィンチとの交友がその建築に何をもたらしたのかも、不明のままである。しかし 1500 年にローマに現れるや、ほどなくしてサン・ピエトロ聖堂やヴァチカン宮殿などの大工事を引き受けたちまちま建築界の頂点に登りつめ、ラッファエッロをはじめとする当時の代表的芸術家たちの中心的存在として君臨することとなる。権謀術数の渦巻くローマ社会の中で、彼の建築と「古典主義」は政治的パフォーマンスの道具として利用され、建築家は「デミウルゴス」のごときものとみなされるに至る。ブラマンテは“maestro ruinante” (壊し屋) との綽名を献上されながらも、いかにして彼らの要請を巧みに即建築的課題にすり替えることが出来たのか。アルベルティが予見していた新たな職能としての「建築家」像を彼はどのように引き受けたのか。西欧的建築家像の命運を考える上で、ブラマンテの提起する問いかけはかぎりなく重いものがある。

ブルネッレスキが先鞭をつけアルベルティがその体系化を試みた建築技術の独自性追求という課題を、ブラマンテやその世代の人々がいかに受け継ごうとしたか。

イタリア・ルネサンス建築史ノート (1)

ブルネッレスキ

Filippo Brunelleschi
1377-1446

福田 晴虔

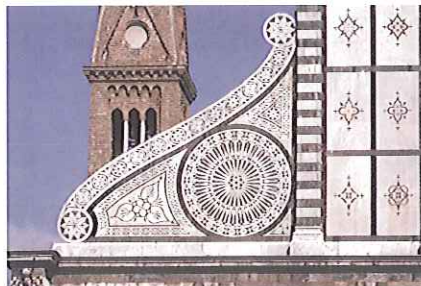


イタリア・ルネサンス建築史ノート (2)

アルベルティ

Leon Battista Alberti
1404-1472

福田 晴虔

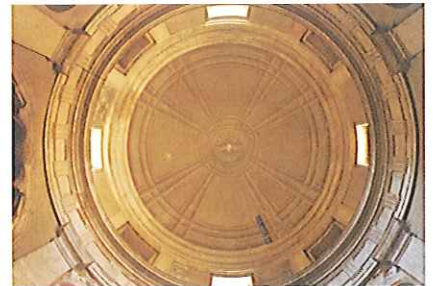


イタリア・ルネサンス建築史ノート (3)

ブラマンテ

Donato Bramante
1444-1514

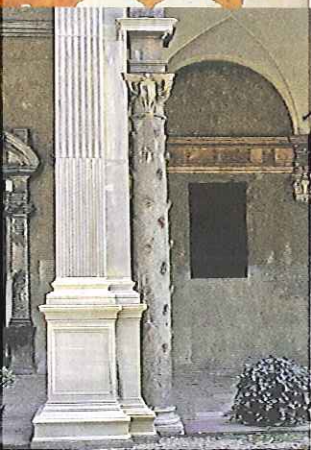
福田 晴虔



お取り扱い

中央公論美術出版

〒104-0031 東京都中央区京橋 2-8-7
電話 03-3561-5993 FAX 03-3561-5834



ブラマンテ 目次

はしがき

I. 絵画から建築へ

「デミウルゴス」としての建築家像/ウルビーノとフラ・カルネヴァーレ、ピエロ・デッラ・フランチェスカ/ペルージャのサン・ベルナルディーノのオラトリオ壁画/「プレヴェダリの版画」;チェーザレ・チェザリアーノ/「パニガローラの家」の壁画/ロムバルディアのルネサンスと工匠たち

II. ブラマンテとロムバルディア (1)

サンタ・マリーア・ブレッソ・サン・サティエロ聖堂/バッタジオ兄弟とアゴスティーノ・フォンドゥリ/ゴシックルネサンスか/ルドヴィーコ・イル・モーロとルネサンス/パヴィアのドウオモ、レオナルドとブラマンテ/サンタ・マリーア・デッレ・グラツィエ聖堂内陣/「ブラマンテスコ」

III. ブラマンテとロムバルディア (2)

ミラノ大聖堂の「ティブリオ」/レオナルドとブラマンテの「意見書」/サンタムプロジョ修道院の「カノニカ」/ヴィジェヴァノの広場計画/「古代都市街路の図」と舞台背景/ロムバルディアからの「離陸」—アッピアテグラッソのサンタ・マリーア・デッラ・ナシエンテ聖堂ファサード/サンタムプロジョ修道院の「キオストロ」

IV. 教皇のローマと工匠たち

ニコラス五世とアルベルティの遺産/パウルス二世とパラッツォ・ヴェネツィア—フランチェスコ・デル・ボルゴの「古典主義」/教会建築と軍事建築—工匠群像/リアリオ枢機卿とパラッツォ・デッラ・カンチェレリア/アントーニオ・ダ・サンガッロ・イル・ヴェッキオとチヴィタカステッラーナの城砦

V. ローマへのデビュー

Antiquarie prospettiche romane /サンタ・マリーア・デッラ・バーチェ修道院キオストロ/ブラマンテと「オーダー」/ Via Alessandrina とパラッツォ・カステッレージ/パラッツォ・カプリーニ(「ラッファエッロの家」)

VI. ベルヴェデーレの中庭とヴァチカン宮殿の計画

ユリウス二世の野望/ Codex Coner の図/下段の庭—劇場/中段の庭と「ニンフェオ」;ジェナツァーノの「ニンフェオ」/上段の庭:エクセドラと弧状階段/「彫像の中庭」と螺旋斜路/歩廊の崩壊とブラマンテの構造理解/ヴァチカン宮殿の計画と「グラント・マナー」

VII. 「テムビエット」

サン・ピエトロ・イン・モンテリオ修道院聖堂とカルパル枢機卿/セルリオの図と当初案復原—鏡像空間/「古典性」と「マニエリスモ」/サンタ・マリーア・デル・ポポロ聖堂後陣/ブラマンテと「集中式聖堂」—ロッカヴェラーノの教区聖堂、サンティ・チェルソ・エ・ジュリアーノ聖堂計画案、トーディのサンタ・マリーア・デッラ・コンソラツィオーネ聖堂

VIII. サン・ピエトロ聖堂の計画

ニコラス五世からユリウス二世まで—ユリウスの墓とミケランジェロ/ *Piano di pergamena* /第二次案/クーボラの問題/ラッファエッロの「アテネの学堂」とサン・ピエトロ聖堂/“Maestro ruinaante [o Guastante]” (“壊し屋”)

IX. ブラマンテと都市

教皇と自治都市ローマ/ユリウス通り Via Giulia /パラッツォ・デイ・トリブナリ/サン・ピアジオ聖堂/ユリウス二世の都市戦略とブラマンテの役割/チヴィタヴェッキアの城砦と港湾整備/ロレーアの聖域計画

X. ブラマンテとそのサークル

ブラマンテの周辺/ラッファエッロと古典—「レオ十世宛書簡」/サンタ・マリーア・デル・ポポロ聖堂キジ家礼拝堂/ラッファエッロのサン・ピエトロ聖堂計画案/ヴィッラ・マダーマ計画案/バルダッサーレ・ベルツィとキジ家別荘(「ラ・ファルネジーナ」)/アントーニオ・ダ・サンガッロ・イル・ジョヴァネとパラッツォ・ファルネーゼ

年譜 参考文献目録 索引 あとがき

来年 **2014** 年
ブラマンテ
没後 **500** 年

[著者略歴]

福田 晴虎 (ふくだ・せいけん)

1938年 秋田県に生まれる。
東京大学工学部建築学科卒 建築史専攻
東京大学助手、大阪市立大学工学部講師、
助教授、九州大学大学院教授、西日本工
業大学教授などを経て、現在九州大学名
誉教授

主著(著作・翻訳)

《パラーディオ》、1979年、鹿島出版会
アルド・ロッシ著《都市の建築》翻訳(大
島哲蔵と共同)、1990年、大竜堂
《建築と劇場—十八世紀イタリアの劇場
論》、1991年、中央公論美術出版
ジョン・ラスキン著《ヴェネツィアの石》
I, II, III 翻訳、1994-96年、中央公論美
術出版
《ブルネッレスキ》(イタリア・ルネサ
ンス建築史ノート(1))、2011年、中央公
論美術出版
《アルベルティ》(イタリア・ルネサンス
建築史ノート(2))、2012年、中央公論
美術出版 その他

イタリア・ルネサンス建築史ノート・シリーズ【全3巻】

各定価 6,825 円(税込) A5 判上製カバー装 各巻平均 430 頁

シリーズ 3 巻セット (分売可)	セット価格 20,475 円(税込)	セット
第 1 巻 ブルネッレスキ <small>第 16 回建築史学会賞受賞</small>	2011 年 9 月刊行 ISBN 978-4-8055-0667-7 C3070	冊
第 2 巻 アルベルティ	2012 年 8 月刊行 ISBN 978-4-8055-0668-4 C3070	冊
第 3 巻 ブラマンテ	2013 年 9 月刊行 ISBN 978-4-8055-0669-1 C3070	冊

書店協会(番録)印

ご担当者